

Panasonic

ERPリプレイス に伴う周辺システムとの データ連携基盤 を再構築した事例解説



パナソニック デジタル株式会社

01



データ連携の重要性

02



データ連携の課題

03



導入事例の紹介

04



支援メニューのご紹介

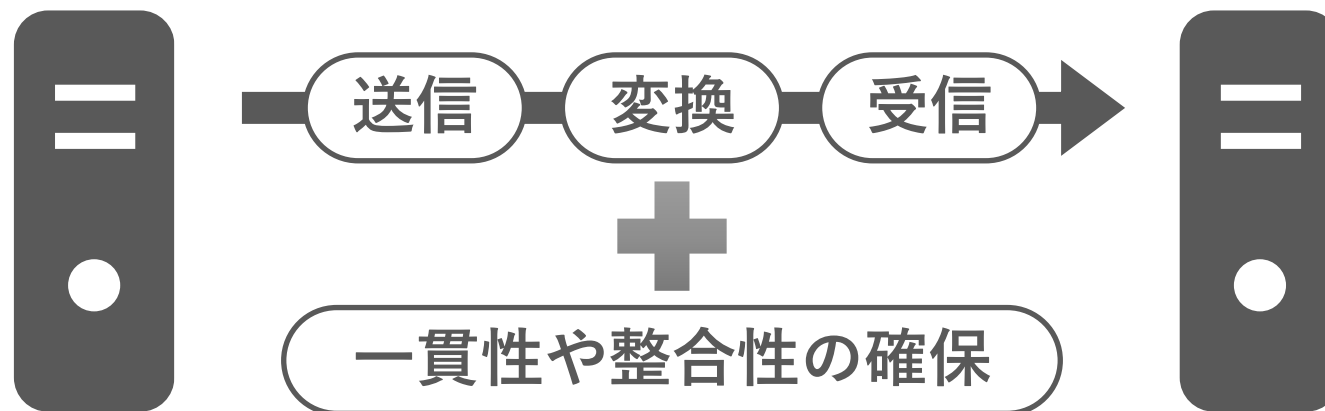
1. データ連携の重要性

1. データ連携の重要性 | データ連携とは？

データ連携とは、複数のシステムやアプリケーション間でデータの送信、変換、受信、を行うことです。一貫性や整合性が確保され、情報共有や業務の連携が効率的に行われるようになります。

販売管理システム

顧客管理システム



効率的な情報共有が可能
業務の連携が実現できる

1. データ連携の重要性 | データ連携のメリットとは

現場担当者だけでなく、決裁者にもメリットがあります。



現場担当者

業務の効率化

データ連携によって業務プロセスがスムーズになり、作業の効率が向上



決裁者

意思決定の支援

データ連携によって必要な情報が正確かつ迅速に提供されるため、意思決定の質とスピードが向上

コスト削減・データの一貫性・競争力の向上といった、データ連携には単なるデータ交換以上の成果が得られる可能性があります。さらに、既存システムの拡張や、活用しながら新システムを追加可能となる点もあげられます。

1. データ連携の重要性 | まとめ

データ連携が重要な理由を簡単にまとめると下記となります。

①リアルタイムな 情報連携

- ✓ 情報の鮮度向上
- ✓ 部門間の協力体制

②データ分析の 質の向上

- ✓ データドリブンな
経営判断

③柔軟性・拡張性

- ✓ 既存システムの拡張
- ✓ 新サービスの追加

2. データ連携の課題

2. データ連携の課題

データ連携における、よくある課題です。

ドキュメントが存在しない

工数算出が難しい

属人化してしまう

ドキュメントが存在しない

運用まで
意識していない

納期優先と
なり後回し
になっている

作成する
ドキュメント
が分からない

ドキュメントの課題として、運用や全体像の把握が不十分であったり、必要な項目が欠落していることがあります。実際に存在しないか、または理解をサポートするためのドキュメントではない場合もあり、他にも、必要な情報が記載されていないケースがあります。

工数算出が難しい

必要なタスクが
分からない

難易度が
分からない

新ツールへの
知識がない

工数規模にの課題については、「必要なタスクが不明」「タスクがわかっても難易度が不明」という場合があります。スコープや目標が決まれば、チームの方向性が決まり、タスクの洗い出しをスタートできますが、難易度について判断することは難しく課題になりやすいです。難易度が見積もれないと具体的な計画を立てられず、開発期間などの議論が難しくなります。

属人化してしまう

個人のスキルに
依存している

ドキュメントが
不足している

ベンダー依存
になっている

3つ目の属人化という課題については個人の知識やスキルに依存してしまうことや、ドキュメントが不足していることによって発生します。また、ベンダーで開発を行った後、社内担当者では中身がわからず、ブラックボックス化しているケースもあります。

2. データ連携の課題

実際の事例をもとに、データ連携の成功に向けて課題を深掘りしながら整理していきます。

ドキュメントが存在しない

工数算出が難しい

属人化してしまう



データ連携を成功させて、
さらなるIT活用の促進を目指しましょう

3. 導入事例の紹介

化学
製品業

ERPリプレイスに伴う周辺システムとのデータ連携基盤の再構築

クラウド
連携

JP1連携

導入前の課題

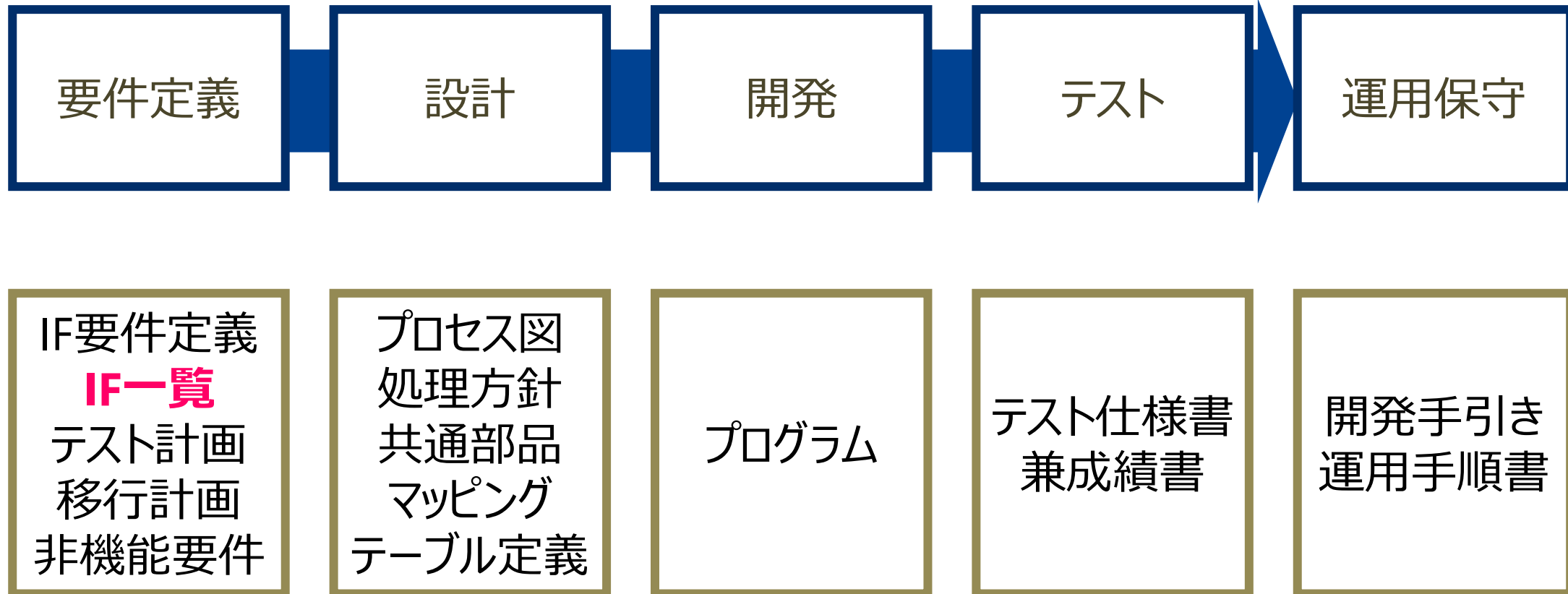
- ・ 開発担当が**属人化**
- ・ 連携の手法と**工数の妥当性が不明**

導入活動の成果

- ・ データ連携開発未経験の担当者の**スキルアップ**
- ・ 標準化・テンプレート化による連携開発規模の**明確化**（詳細は後述）

3. 導入事例の紹介 | 属人化を防ぐための取り組み

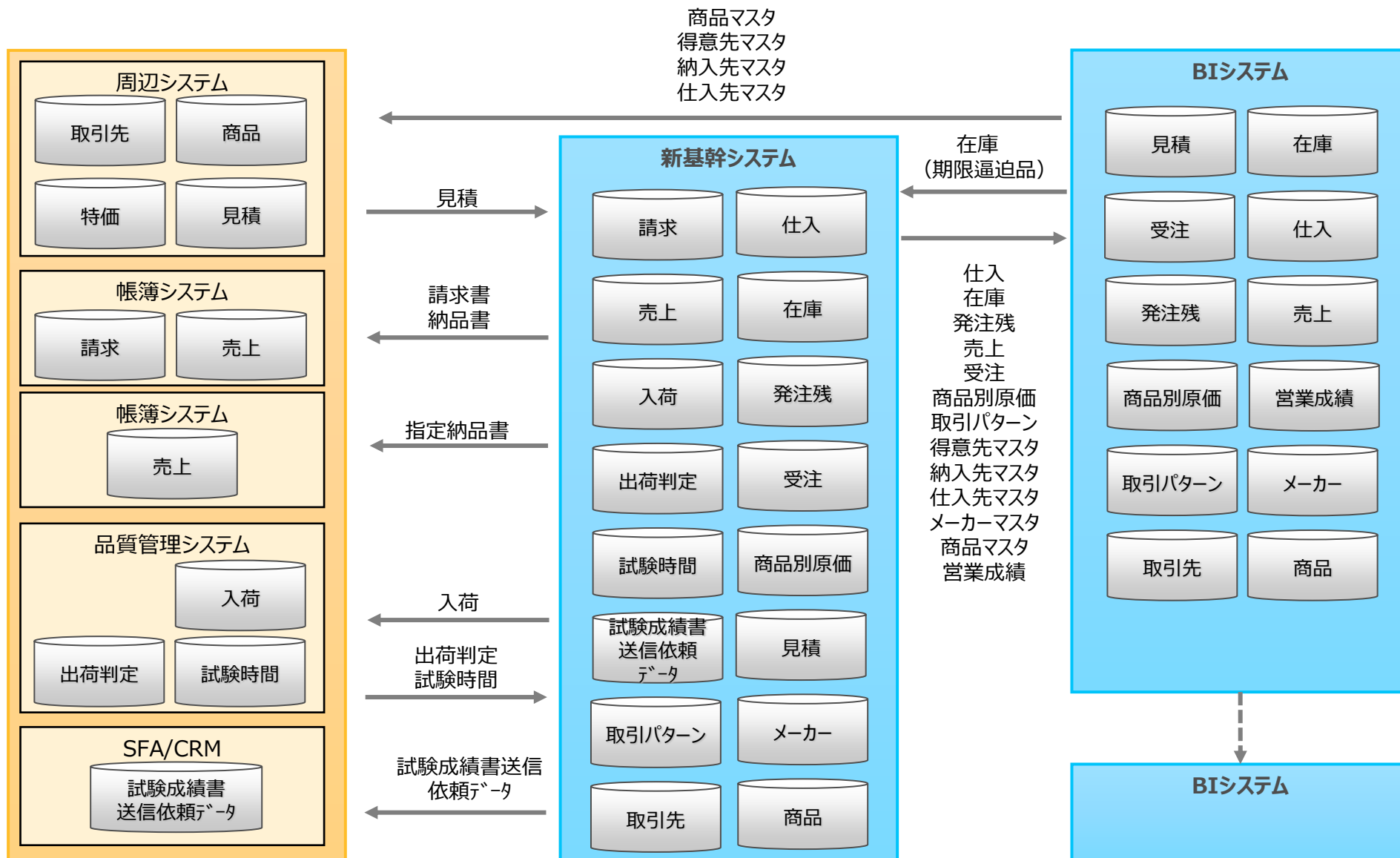
実際の事例をもとに、データ連携の成功に向けて課題を深掘りしながら整理していきましょう。属人化を防ぐために、フェーズ単位で作成したドキュメントを通じて情報を共有し、意見やフィードバックをもらいながら決定や問題解決を行っていました。



3. 導入事例の紹介 | データ連携に漏れがないかの確認

インターフェースの要求一覧を元に作成したシステム連携図です。

「どのシステムでどのようなデータを管理しているか」「データの源泉はどこなのか」「どのようなデータを連携すればよいか」の3点を整理しました。
これらのデータ連携を行うことで、業務が円滑に回るかを確認ポイントとしました。



3. 導入事例の紹介 | 連携処理単位に仕様を確認

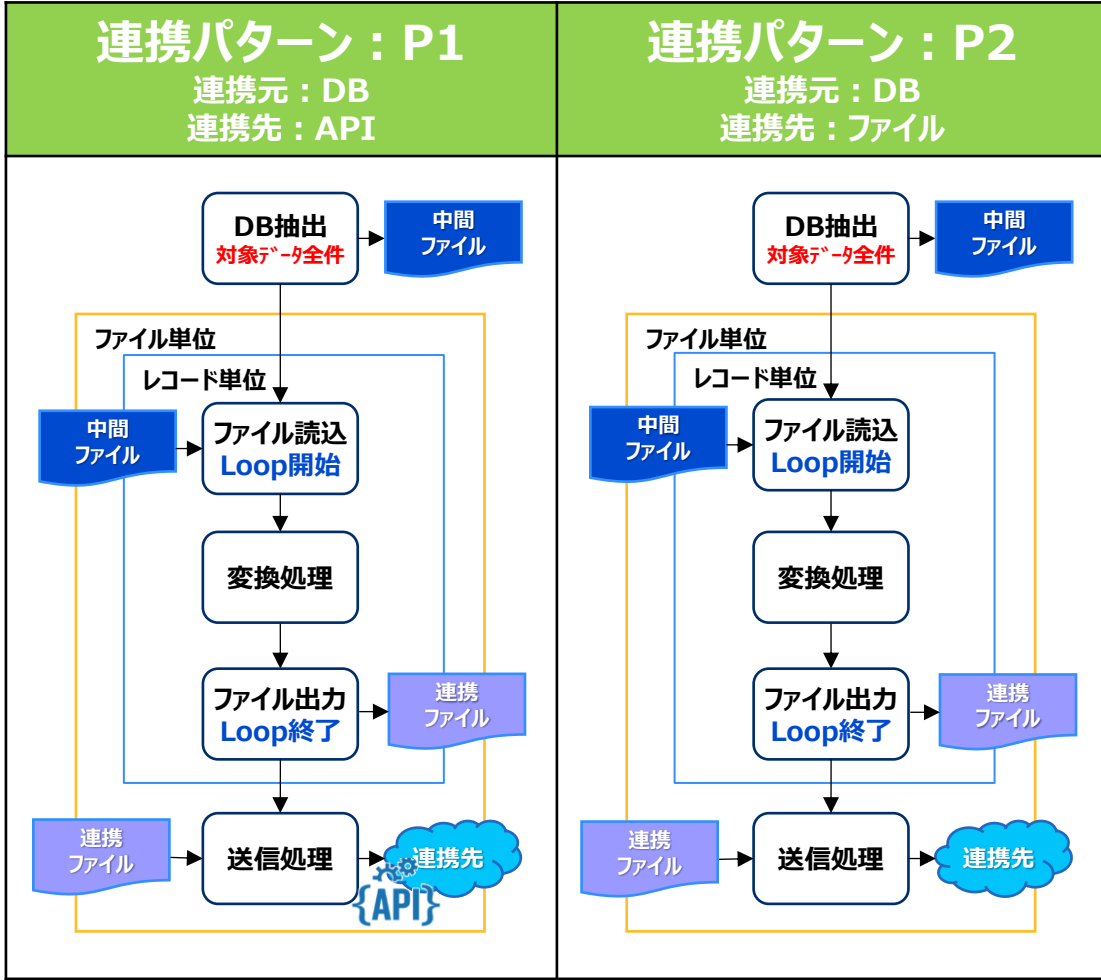
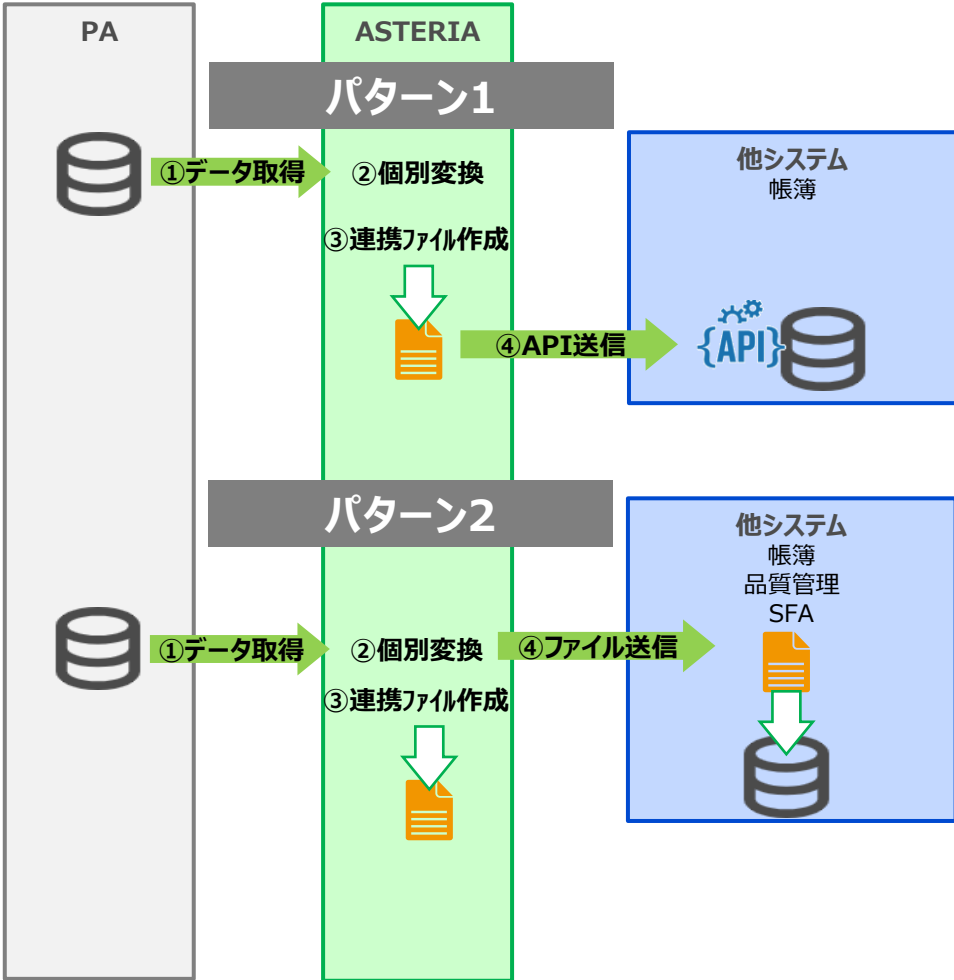
データ連携処理をカテゴリに分けて整理します。

カテゴリ	項目	凡例
基本情報	No.	例)
	I/F-ID	PAE2MDB_Denso
	連携元システム	連携元システム
	連携先システム	連携先システム
	伝送情報	伝送データ
	連携時個別通知要否、通知要件	要 or 不要 ※要の場合、フリーで記載
連携パターン	処理起点	JP1
	IF方式・パターン	P1※「IF方式パターン」シートのNoを記載
連携データ種類	連携元データ種類	差分/全件
	抽出条件	パラメータ指定/前回連携日時
各種管理	実行管理	必要/不要
	出力済管理	必要/不要
	出力済時の動作	連携対象外/その他
	履歴管理	必要/不要
	連携タイミング	毎日(毎時)※土日祝も稼働
	ASTERIA Warpチェック処理	無し/有り(エラー時全件NG) /有り(エラーレコードのみNG)
	多重起動時制御	待機/終了/エラー
	エラー時制御	中断/継続
	エラー時リカバリー方法	連携起点からの再実行/手動による ASTERIA Warp再実行/次回連携にて再 取込
	連携元作成タイミング	【日中】※バッチジョブ 7:55~21:55 毎時55分に実行。開始時点で前回分が実行 中の場合、その回はスキップする。
	連携先使用タイミング	【日中】※ファイル常駐監視 7:00-22:00

カテゴリ	項目	凡例
連携元ファイル情報	連携元ファイル・テーブル名称	PAE2MDB_IN001.dat
	連携元項目数	100
	連携元形式	CSV/TSV/固定長/テーブル/Viewなど
	連携元文字コード	Shift-JIS/UTF-8
	連携元項目ヘッダ有無	(ファイルの場合) 有/無
	連携元0件ファイル出力有無	(ファイルの場合) 有/無
	連携元0件ファイル取り扱い	(0件ファイルを受信した場合) 連携対象外/エラー
	連携元受信0件時制御	(連携元データ・ファイルが存在しない場合) 正常終了/エラー
連携元トリガーファイル情報	連携元トリガーファイル情報	(トリガーファイルが有る場合) トリガーファイル名/データ内容
	受信後ファイル取り扱い	(ファイルの場合) 削除する/削除しない/別名に変更
	連携先ファイル・テーブル名称	PAE2MDB_OUT001.dat
	連携先項目数	100
連携先ファイル情報	連携先形式	CSV/TSV/固定長/テーブル/Viewなど
	連携先文字コード	Shift-JIS/UTF-8
	環境依存文字変換有無	(ファイルの場合) 有/無
	連携先項目ヘッダ有無	(ファイルの場合) 有/無
	連携先0件ファイル取込有無	(ファイルの場合) 有/無
	連携先0件ファイル取扱い	(0件ファイル出力有る場合) 連携対象外/エラー
	連携先送信後ファイル取扱い	使用后削除する/使用后削除しない/使用 後別名に変換/JP1にて移動する
	連携先同名ファイル取扱い	(ファイルの場合) 上書き/エラー
	連携先トリガーファイル情報	(トリガーファイルが有る場合記載) トリガーファイル名/データ内容
	その他	既存システム側の設定制約
最大データ件数(想定)		10000

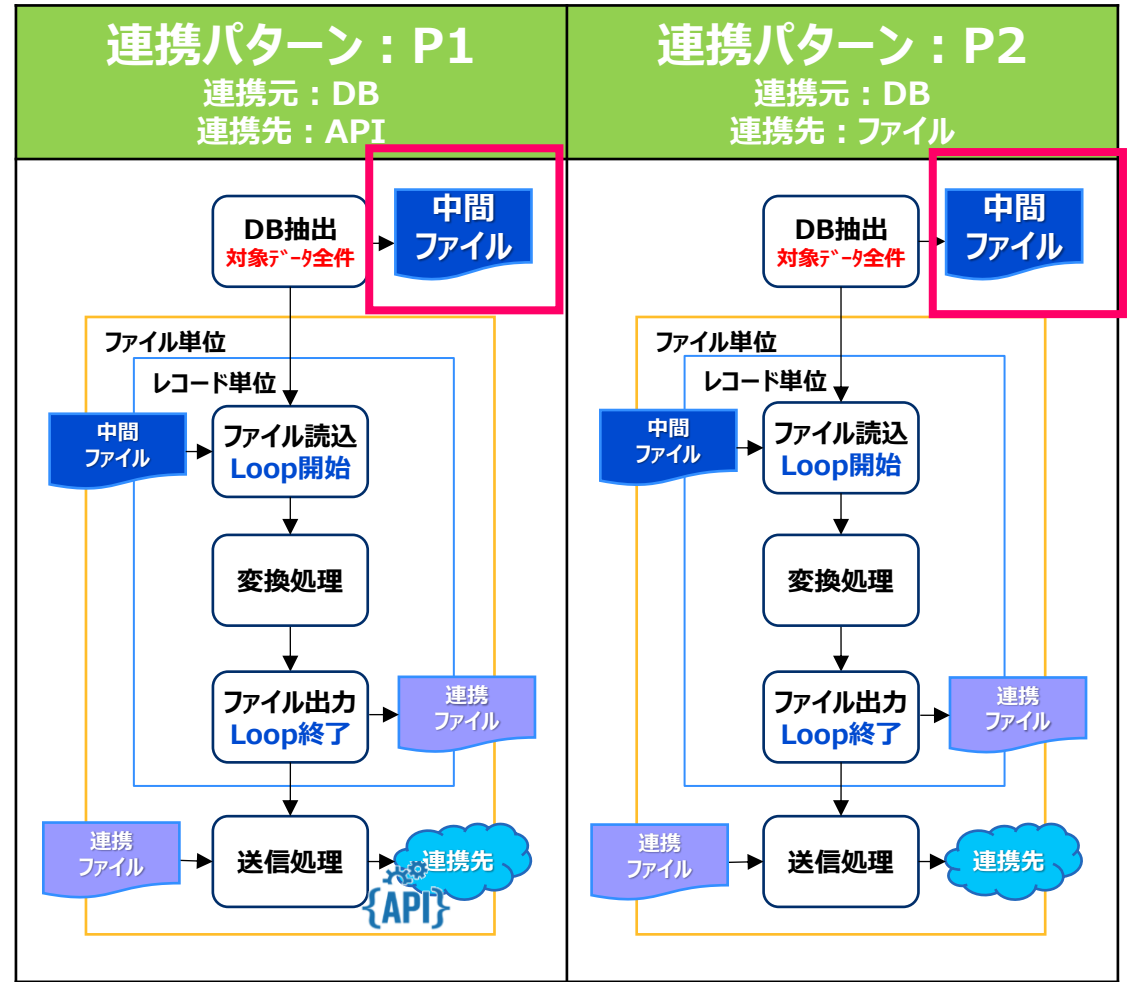
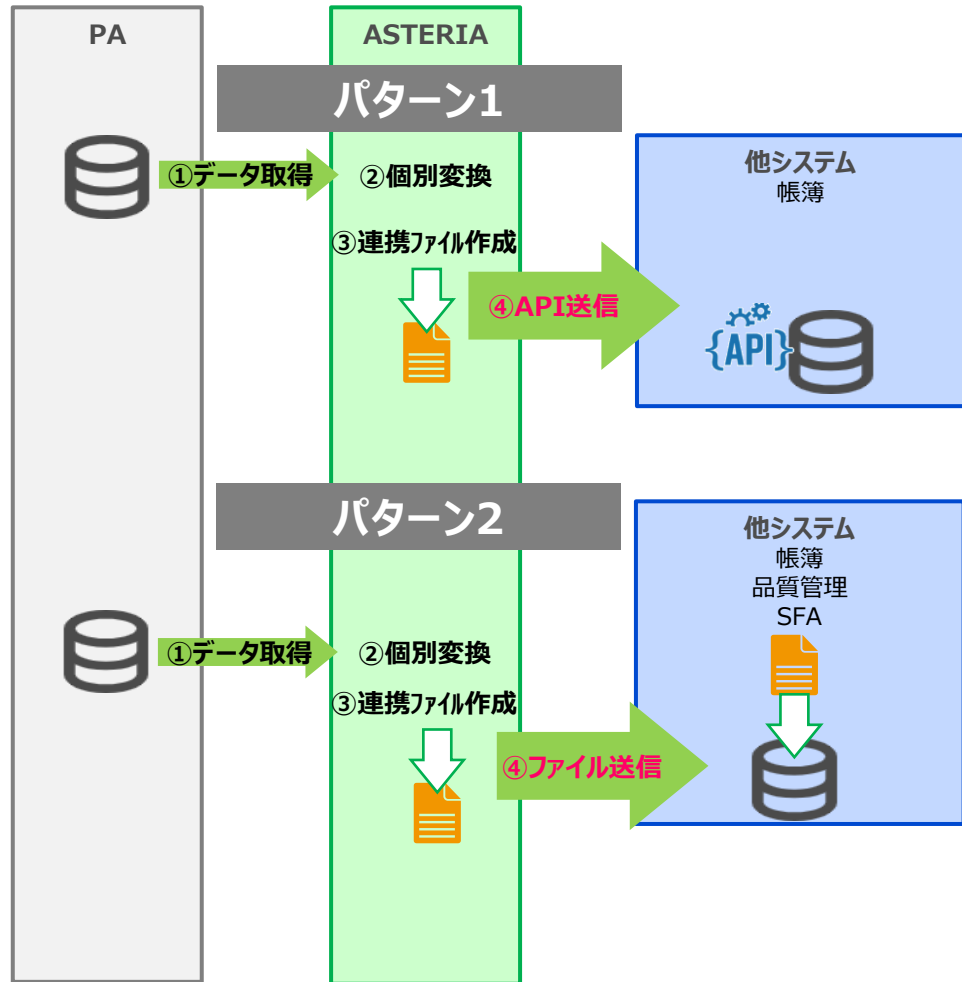
3. 導入事例の紹介 | パターン化と処理プロセスを整理 (40連携を8パターンへ)

連携パターンと処理プロセスの整理を行なった資料となります。
具体的には40種類の連携を8パターンに分類しました。



3. 導入事例の紹介 | パターン化と処理プロセスを整理 (40連携を8パターンへ)

属人化への具体的な取り組みとして、テンプレートパターンの作成とドキュメントでの整理を行い、未経験の担当者でも理解しやすい環境を目指しました。さらに、実践的な開発を支援するために開発手引き書を作成しました。



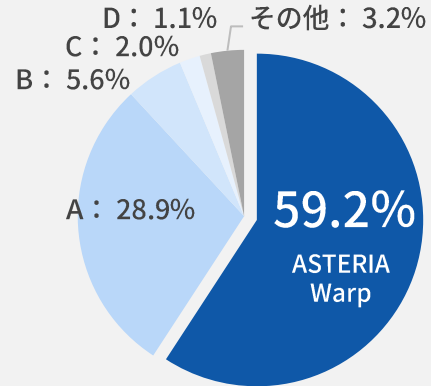
新規連携の開発を行う場合と、既存連携の修正を行う場合での修正規模の判断基準について、まとめると、下記のようになります。「テンプレートのパターン化」と「パターンごとの処理プロセス」を整理することで、修正箇所や規模想定することができるようになります。

テンプレートのパターン化により修正規模を想定



4. 支援メニューのご紹介

2025年 EAI/ESB市場シェア



19年連続 シェア **No.1**

市場占有率は、2位の製品シェアの
約**2倍**

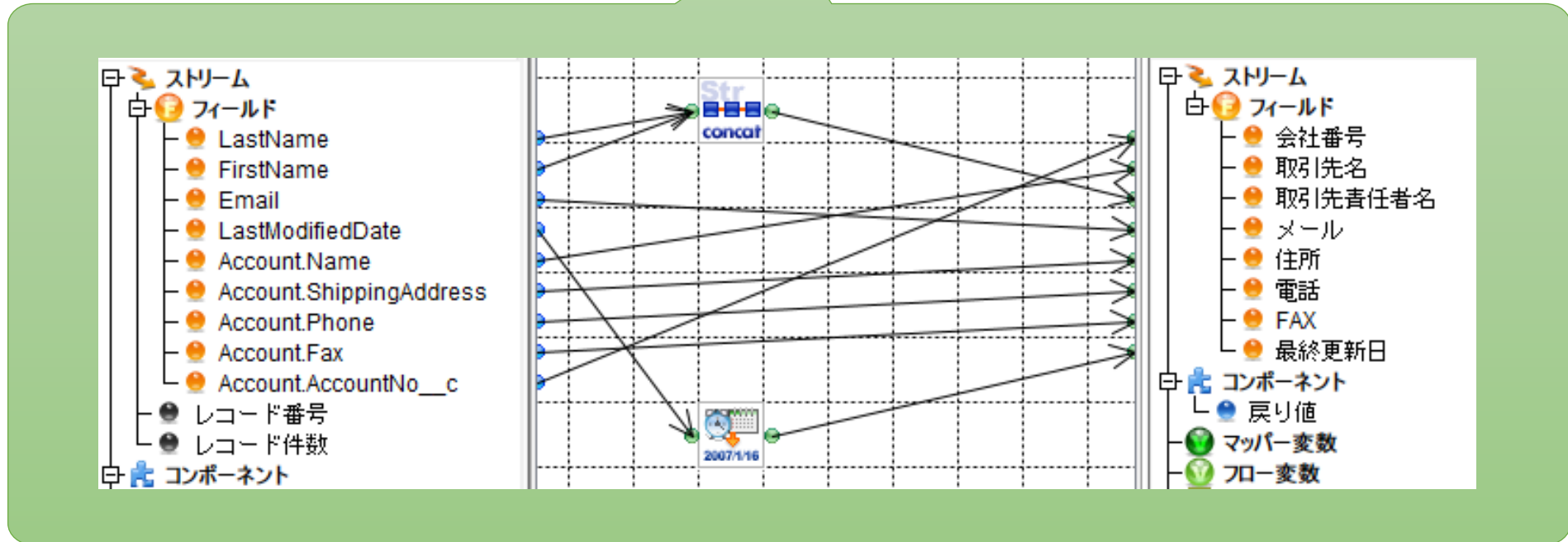
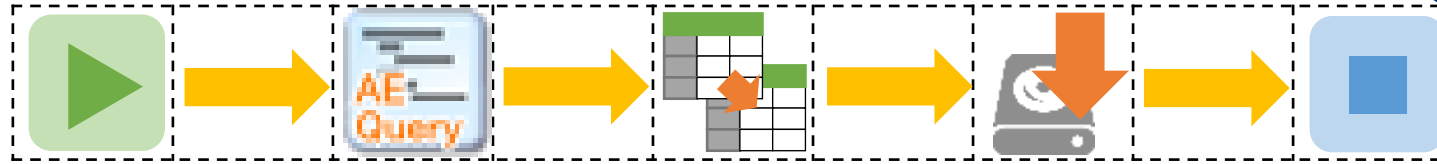
テクノ・システム・リサーチ「2025年ソフトウェアマーケティング総覧EAI/ESB市場編」

導入社数



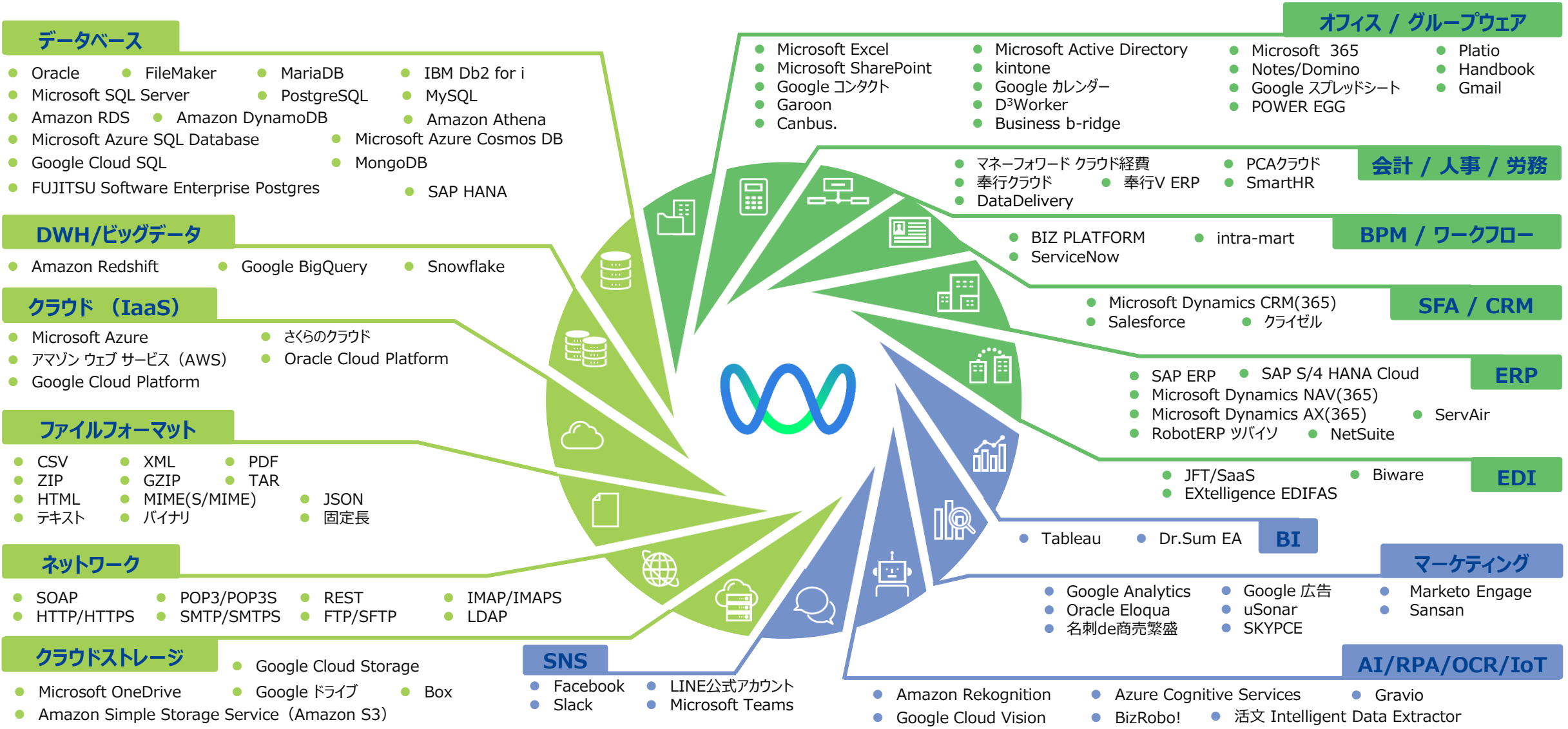
Salesforceから取得した情報を加工し
ファイル出力する設定イメージ

内製化
情シス1年目でも
構築カンタン



4. 支援メニュー | より簡単につなぐ100種類以上のアダプター

※オプションを含む



4. 支援メニュー | パナソニック デジタルの独自支援メニュー

No.	項目	内容
1	インストール・環境設定サービス	<ul style="list-style-type: none"> サーバ設定事前打合せ ASTERIA Warpインストール、ユーザ作成、パラメータ設定（パラメータチューニングは除く） ASTERIA Warpサービス起動確認、デザイナーからの接続確認 環境設定書作成 ※ Javaのインストールは含みません。 <p>オプションアダプタ追加（アダプタ毎に別途インストールが必要な場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> オプションアダプタのインストール、パラメータ設定 オプションアダプタの接続確認
2	技術問合せ対応サービス（期間指定）	<ul style="list-style-type: none"> ASTERIA Warp技術問合せ対応（電話・メール） 平日9:00～17:00 貴社窓口1名 期間1ヶ月間、最大5インシデントまで
3	フロー構築支援サービス（オンライン）	<ul style="list-style-type: none"> ASTERIA Warpフロー構築オンサイト支援 平日10:00～17:00 <ul style="list-style-type: none"> 要件定義支援 ASTERIA Warp設計支援 フロー初期構築支援 テクニカルQ&A対応など 貴社窓口2名まで
4	フロー構築支援サービス＋技術問合せ対応サービス	<ul style="list-style-type: none"> ASTERIA Warpフロー構築オンサイト支援 平日10:00～17:00 4回 <ul style="list-style-type: none"> 要件定義支援 ASTERIA Warp設計支援 フロー初期構築支援 テクニカルQ&A対応など ASTERIA Warp技術問合せ対応（電話・メール） 平日9:00～17:00 貴社窓口2名まで 期間1ヶ月間、最大5インシデントまで

※「ASTERIA Warp」はアステリア株式会社の登録商標です。

会社名	パナソニック デジタル株式会社
本社所在地	■大阪 〒530-0053 大阪市北区末広町2番40号 Panasonic XC OSAKA TEL : 06-6906-2801 (代表) ■東京 〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号 TEL : 03-5148-5634 (代表)
代表取締役 社長執行役員	阿部 裕
設立年月日	1999年2月22日
事業内容	情報サービス
資本金	1,040百万円
関連会社	松下情報系統（上海）有限公司

[お問い合わせはこちら](#)